

【協議題】

これからの教育の在り方について

～ 新しい学び・多様な学びの実現に向けて ～

令和5年2月16日(木) 午後1時～午後2時

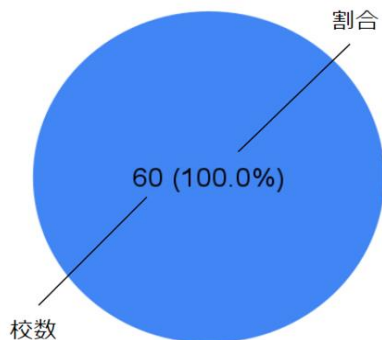
奈良市役所 中央棟地下1階 B1会議室

令和4年6月に市立小中学校60校（施設一体型小中一貫校は1校としてカウント）へのアンケート調査を実施。調査結果より抜粋。

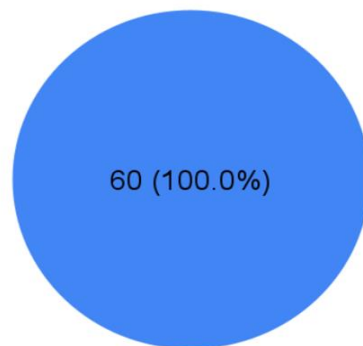
校務や保護者連絡のデジタル化が進んでおり、ペーパーレス化や、会議の短縮などが進んでいる。

【ペーパーレス化など校務の見直しの状況】

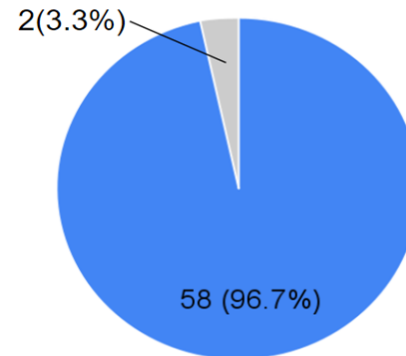
①校務のペーパーレス化を実施



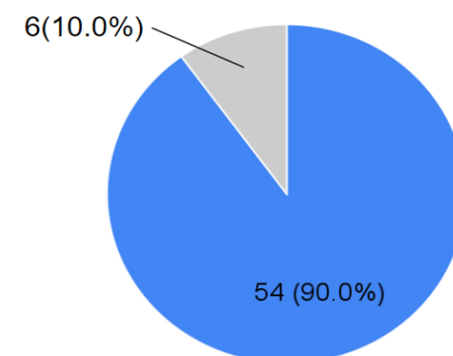
②指導要録をデータ化



③全体の職員会議を縮小



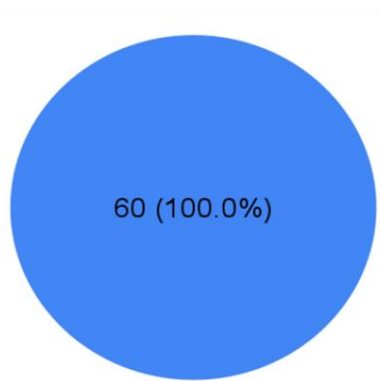
④職員朝礼を廃止・縮小



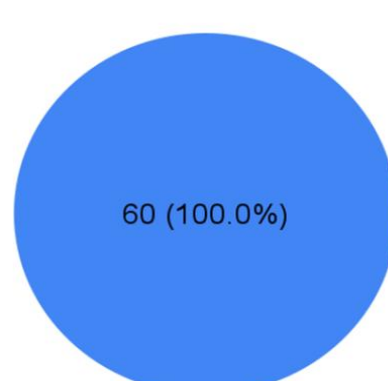
● はい
● いいえ

【保護者連絡アプリ「さくら連絡網」の活用の状況】

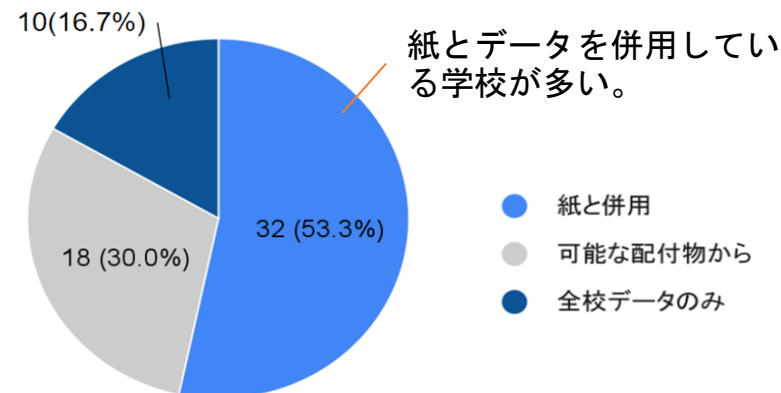
①利用率



②朝の出欠、検温連絡で使用

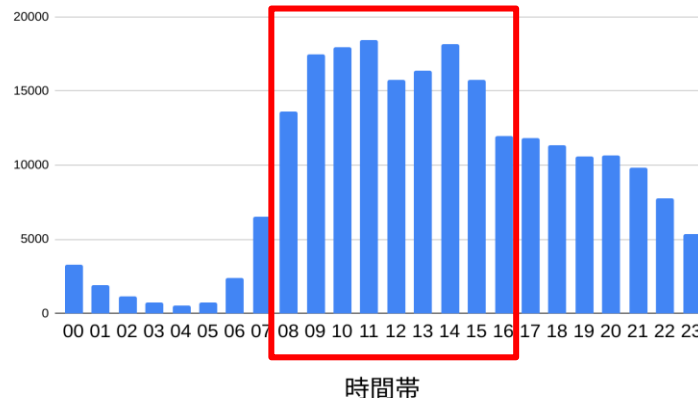
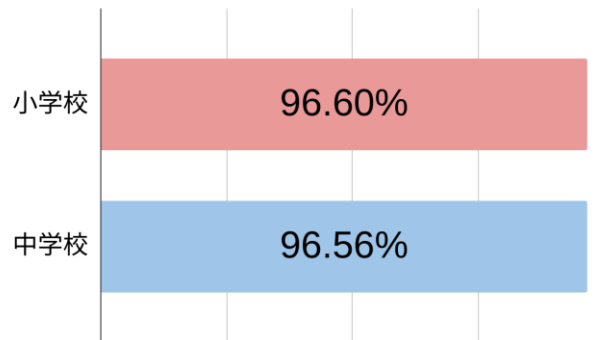


③学校から保護者宛の配付物のデータ配信



● 紙と併用
● 可能な配付物から
● 全校データのみ

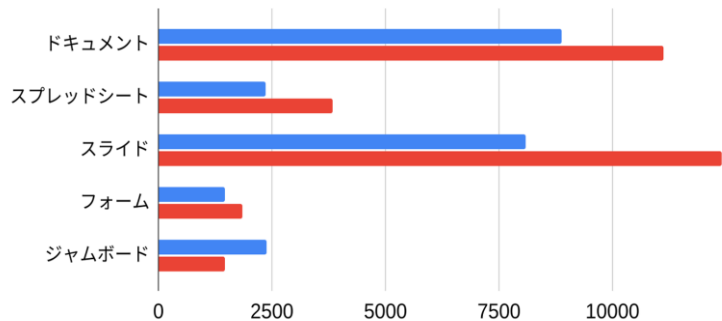
① 2022年11月の児童生徒端末利用率と時間帯別利用状況



- 小学校・中学校ともに、96%以上の児童生徒が端末を利用
- 時間帯別に見ると、登校中(赤枠)だけでなく、下校後も端末を利用

② 教職員(約1850人)の各種Googleサービス利用数と教職員1人あたりの平均利用数について

Googleサービス利用数 ■ 9月 ■ 11月



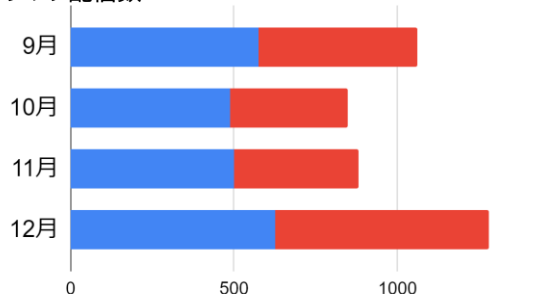
教職員1人あたりの平均利用数について

	ドキュメント	スプレッドシート	スライド	フォーム	ジャムボード
9月	4.80	1.27	4.37	0.79	1.29
11月	6.01	2.07	6.70	1.00	0.79

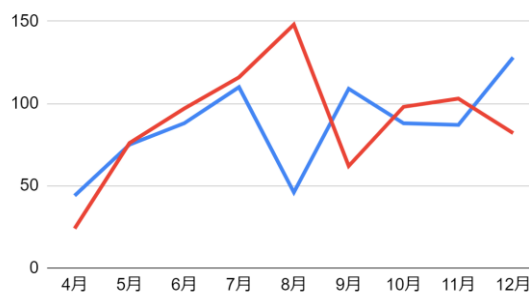
- 教職員によるドキュメントやスライドの利用状況の伸びが目立つ
- 教員1人あたりの平均利用数でも、スライドの利用が多く、定着が見られる。

③ Qubenaワークブック配信数(9月~12月)と1人あたりの回答数推移(4月~12月)

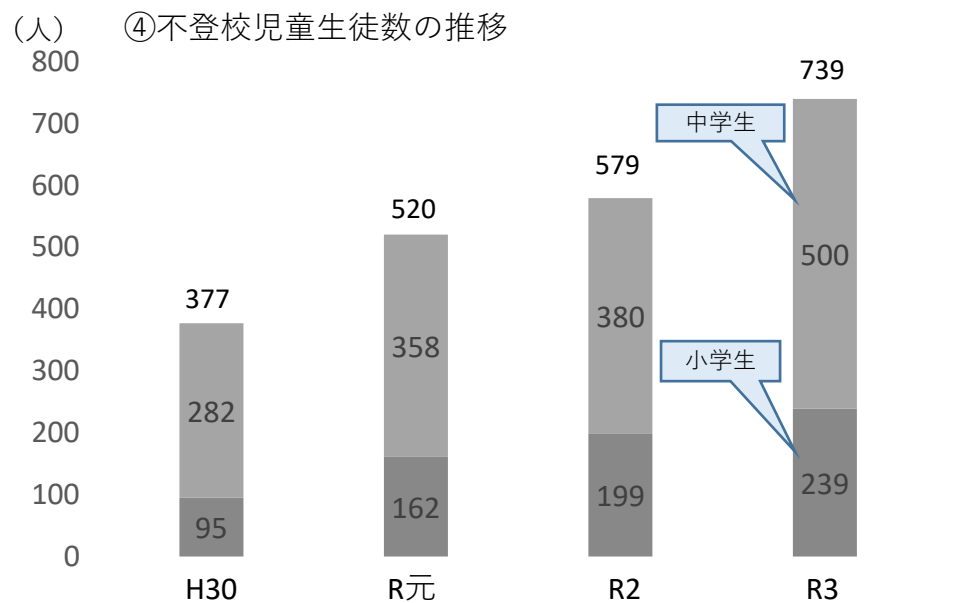
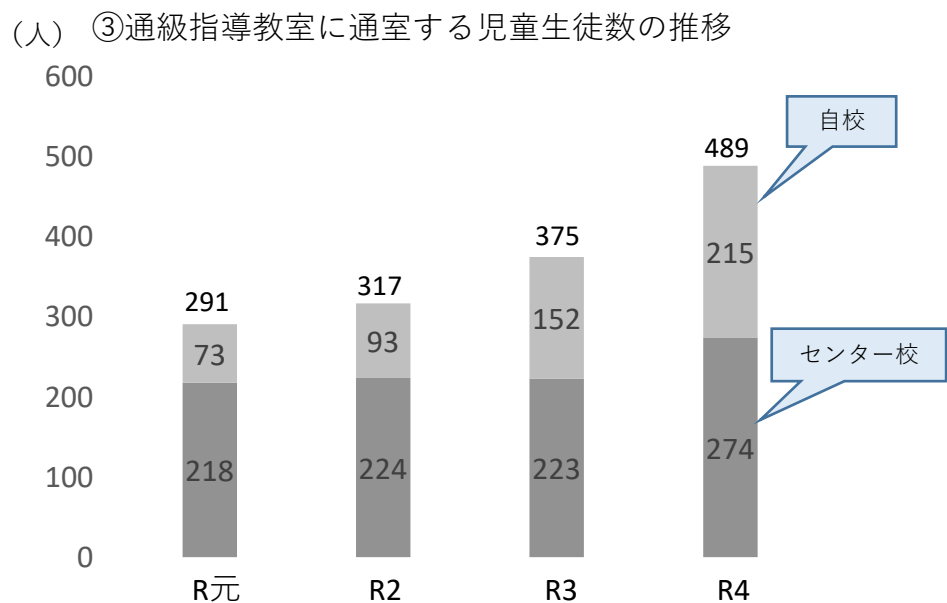
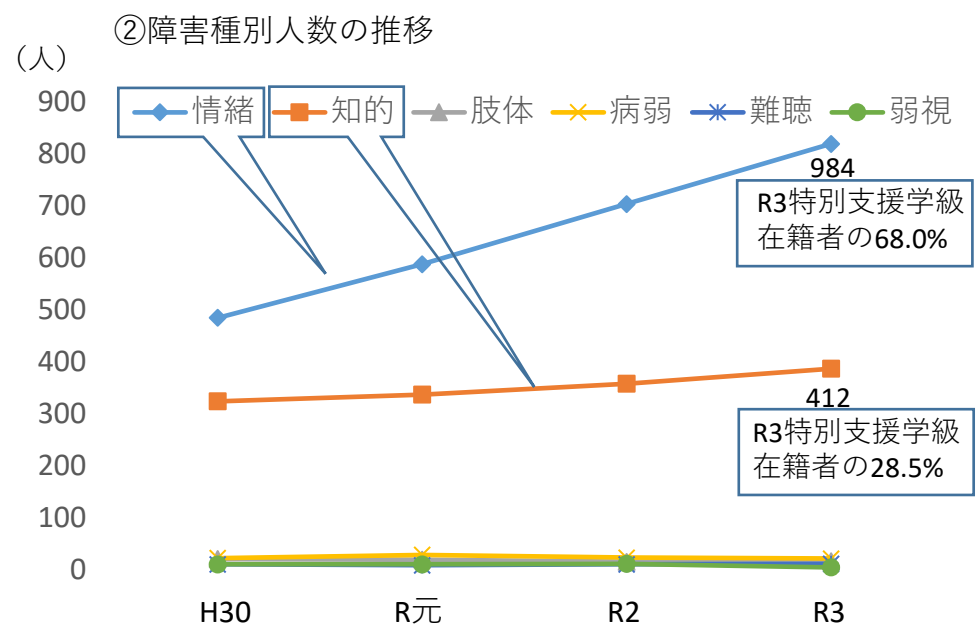
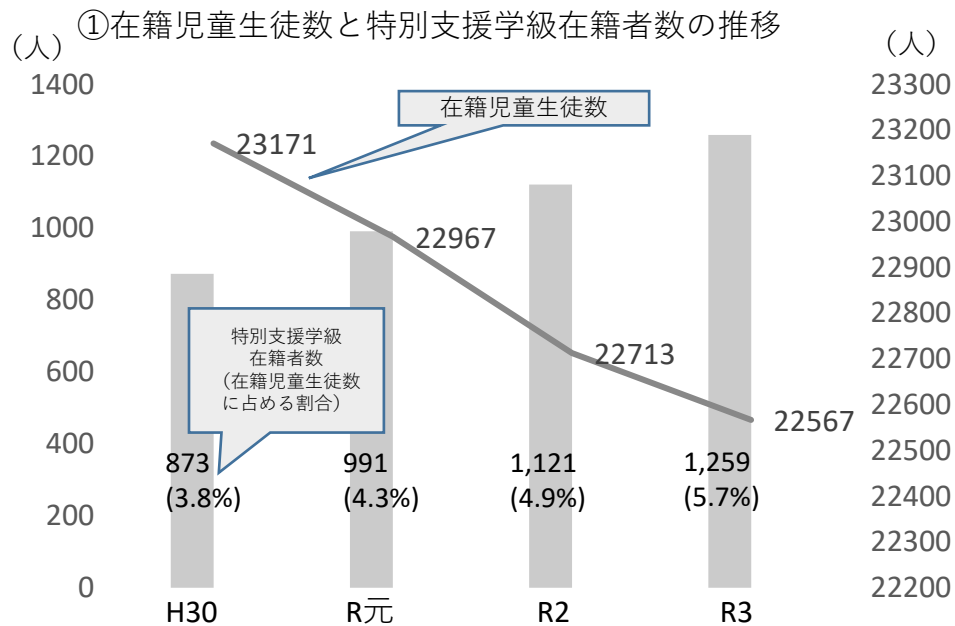
ワークブック配信数 ■ 小学校 ■ 中学校



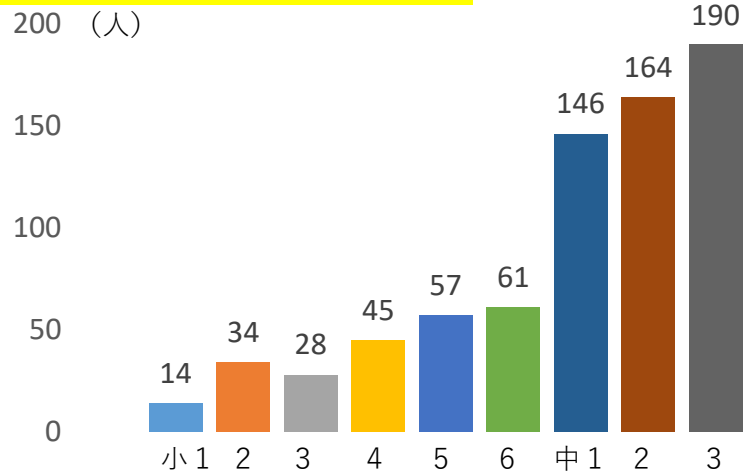
1人あたりの回答数推移 ■ 小学校 ■ 中学校



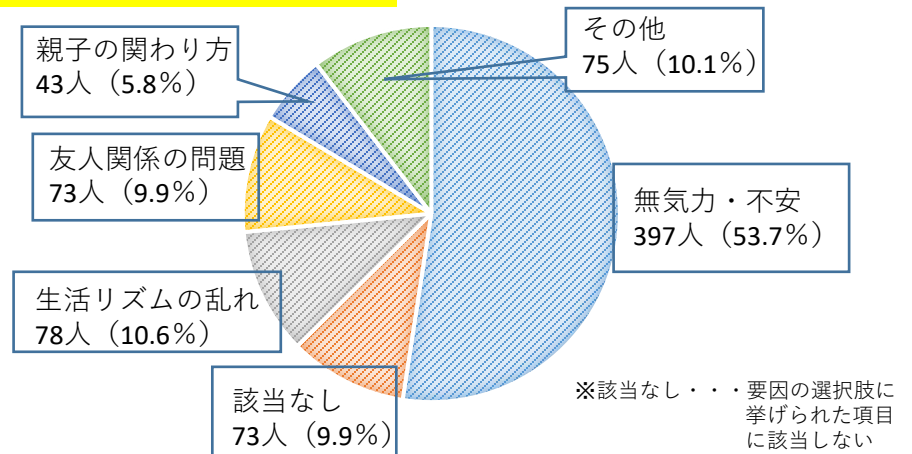
- 長期休業前後に、教員主導のワークブックの配信数が増える傾向にあった。
- 回答数を比較すると、夏休み中の活用について小・中で利用の様子に差があった。



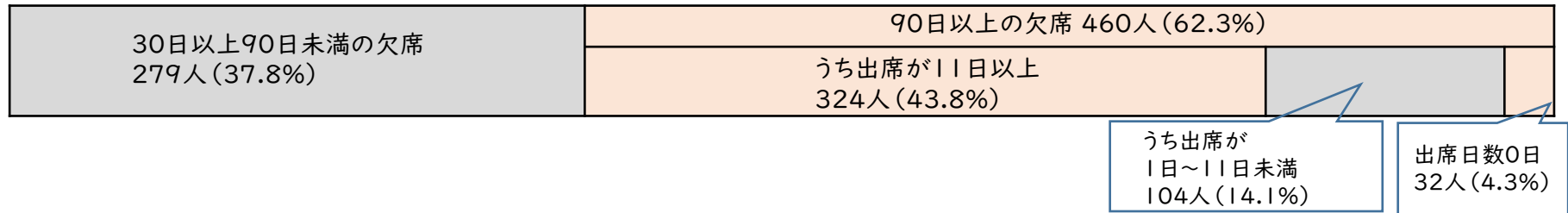
739人の不登校の学年別人数



739人の不登校の要因



739人の欠席日数の内訳



不登校サポート事業の在籍者数

(R4 12月現在)

	小学生	中学生	計
HOP	13	26	49
HOP青山	16	8	24
Web HOP	3	18	21
訪問学習支援	0	2	2



在籍者のうち90日以上欠席している者

人数	割合
38	77.6%
22	91.7%
16	76.2%
2	100%

目標：生涯にわたり学び続け、他者と協働して未来を切り開く人間の育成

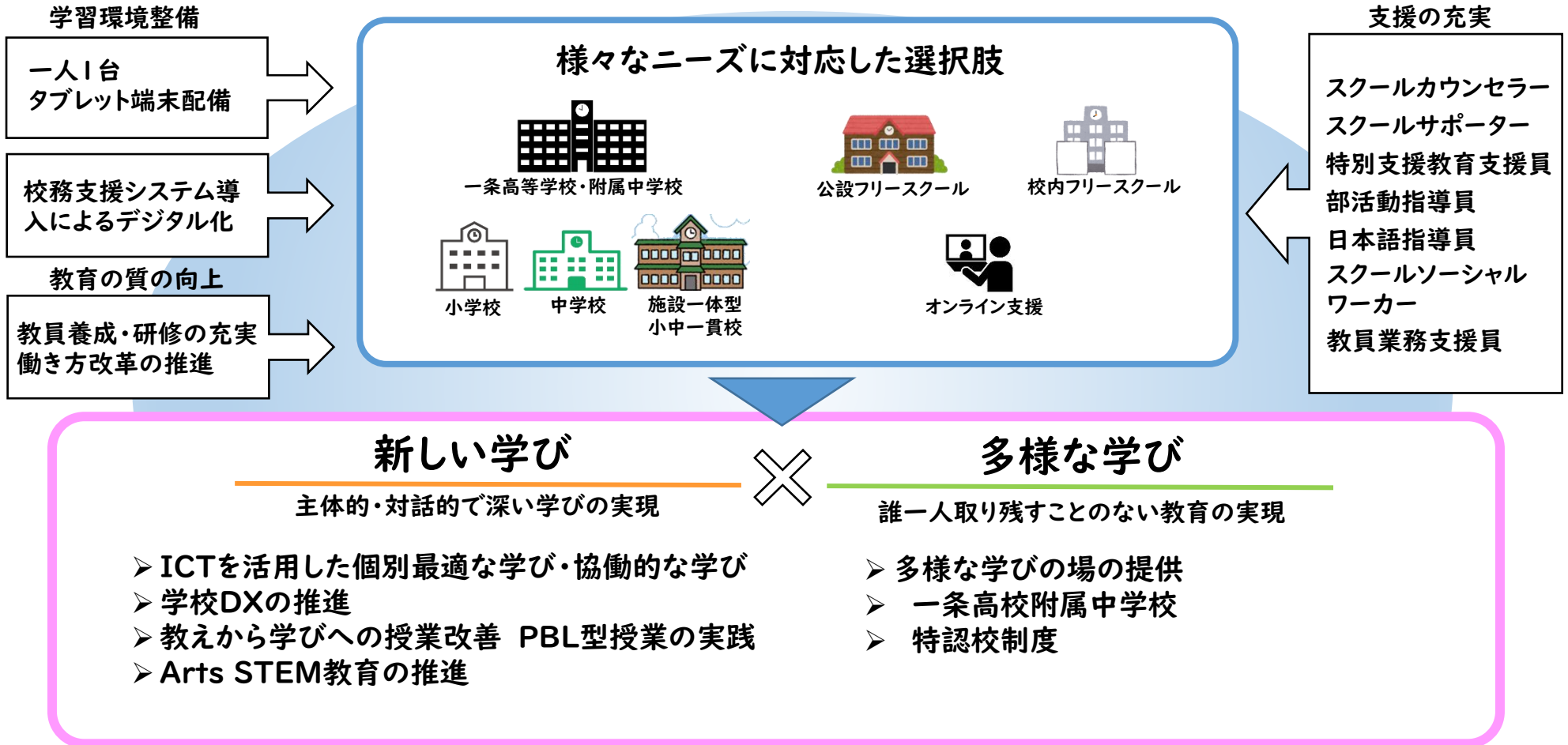
目指す子ども像：

みずから学ぶ子

とことん学ぶ子

つながり学ぶ子

ウェルビーイングな社会の担い手の育成



奈良市の教育から社会へつなぐ

ー変化を起こすために、自ら目標を設定し、振り返り、責任をもって行動できる資質の育成へー

- ✓子どもたちが自ら自律的に学び続けることができるように、たくさんの「質の高い体験」を意図的に実施。
- ✓学校はセーフティネットとして保障された安心安全な学習の場に。
- ✓教員は子どもの学びに伴走し支援する存在に。

学ぶこと
の楽しさ

つまずき
達成感

協働する
喜び

ロールモデル
との出会い

新しい学びに必要な3つの視点

■PBL

課題解決型の授業を通して、チームで取り組む子ども主体の学び

例) ●一条附属中学校
探究フロンティアのカリキュラム



探究のスキルを磨こう 『理想の家』を考える
発表会

- 世界遺産学習での
オンライン交流・協働学習
- ならやま小中学校 (R5~)
「授業時数特例校制度」
を活用した探究学習

自分のペースで、
自分の力で

個別最適な学び
(みずから学ぶ子)

自律的学習者へ

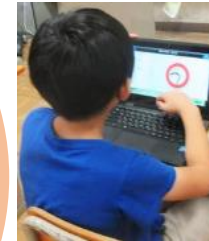
協働的な学び
(つながり学ぶ子)

世界中から
仲間を見つけ
いつでもつながる

シームレスな学び
(とことん学ぶ子)

いつでもどこでも
その時そこが学び場

■ICTを活用した学び



AI学習ドリル



他校との協働授業



普段の授業で

■Arts-STEM

教科融合の視点から、文理統合型の学び

- 例) ●総合なら (総合的な学習の時間) での世界遺産学習
- 一条高校・附属中
公開授業研究会で発信

※優れた実践を
市内の全小中学校に発信・浸透

支えるのは、身体的、精神的な健康が保障されたセーフティネットとしての学校という場所

奈良市学校DXスタンダード

校務DX

教職員の担う事務作業をDX

学校文書のペーパーレス化を推進。
業務や会議などを効率化し、教員の時間を創出。

教育DX

子どもたちの学びや学校生活をDX

「個別最適な学び」「協働的な学び」を実現。
児童生徒の情報活用能力を教育課程全体で育成。

連携DX

保護者・地域との連携をDX

保護者向け通知や、家庭訪問、地域の会議などをデジタル化し、スムーズな連携を実現。

- ✓ ICTを活用し、児童生徒の学習活動の充実を図る。
- ✓ ICT活用の視点で、業務や教育活動における慣例や当たり前を見直す。

2020年代を通じて実現すべき教育の姿

個別最適な学び

シームレスな学び

協働的な学び

- ✓ 指導方法や指導体制の工夫改善により「個に応じた指導」の充実を図る。
 - 子どもの成長やつまずき、悩みなどの理解。
 - 個々の趣味・感心・意欲等を踏まえてきめ細かく指導。
 - 子どもが自らの学習状況を把握し、主体的に学習を調整することができるよう支援。

- ✓ 探究的な学習や体験活動等を通じ、子ども同士・多様な他者と協働する。
 - 他者との関わり合い、自分の感覚や行為を通して理解する実習・実験、地域社会での体験活動。
 - ICTの活用による空間的・時間的制約を超えた他校の子どもとの学び合い。

AI学習ドリルの活用

- ✓ 個別最適学習の充実のためにAI学習ドリル（Qubena）を導入。
- ✓ 間違いの原因をAIが解析し、一人一人に最適化された問題を出題。
- ✓ つまずきポイントに対応する問題を出題。

《市立学校における活用例》

- 数学の授業の始まりに前時の復習として毎時活用。
- 苦手な単元の復習やテスト前の復習として家庭で生徒が自主的に活用。
- 長期休業期間中に課題として活用。

※Qubena（キュービナ）…間違いの原因をAIが解析し、一人一人に個別最適化された問題を出題（小5～中3、5教科（国社算数理英）対応中）。

授業支援ツールの活用

- ✓ 各種Google機能やロイロノートを活用し、子ども同士の発表や話し合い活動を促進。

《市立学校における活用例》

- デジタルホワイトボードを使って班の考えをまとめ、発表。
- ビデオ会議機能を活用し、学習成果を他校と交流。
- 専門家へのインタビュー等をオンラインにて実施。
- ロイロノート上で資料を提出し、全員の意見を一覧で表示。

※ロイロノート…思考力を育成し、協働学習を支援する授業支援ツール。

誰一人取り残さない多様な学びの選択肢

子どもや保護者のニーズに合った多様な支援

誰一人取り残さない
学びの実現を



多様なニーズに対応した
「新しい学びの場」を

すべての子どもたちの
可能性を引き出す学びの場へ

家庭

オンライン支援

家庭訪問

訪問学習支援

Web HOP



連携

通級
指導

別室
登校

校内
フリース
クール



特別支
援学級



オンライ
ン学習

学校内



R3~
HOP
青山

公設
フリースクール



学校以外
の場

(仮称)
HOPあやめ池

令和5年度開設
新しい学びの
選択肢へ

スクールカウンセラー
への相談

不登校保護者の集い
(はぐくみのつどい)

教育センターでの
教育相談



多様な支援